



12月28日、市サッカー協会（尾藤貞二会長）主催のサッカーイベント「キッズサッカーフェスティバル」が伊予三島運動公園体育館（中之庄町）であり、市内の年長児や小学生約100人が参加しました。

市発足20周年を記念して初開催された今回のイベントは、FC今治レディーズの布山達朗監督や松本梨枝選手（村松町出身・写真左上）らが参加し、子どもたちと一緒にミニゲームに臨みました。

会場にはキッチンカーやバザー、キックスピードの計測ブースなどが並び、参加者やその家族らでにぎわいました。



パスをつないで友だちになろう
子どもたちがサッカーで交流



柏原竜二さん 武村佳尚さん（本市出身）



やまじ風に負けるな！
マラソン大会で800人が快走

1月12日、新春恒例の「やまじこマラソン大会」が関川河川敷ふるさと広場（土居町土居）でありました。

市発足20周年を記念した今大会は、昨年愛媛マラソンで3位入賞した武村佳尚さんや箱根駅伝で4度区間賞に輝いた柏原竜二さんが参加。約800人のランナーが風を切つて駆け抜けました。



勝利を引き寄せる
綱引大会に力自慢たちが集結

12月15日、冬の恒例イベント「四国中央市綱引大会」がアリーナ土居（土居町土居）であり、参加した27チーム200人が、綱引きを通して交流を深めました。

今大会は市発足20周年を記念して、四国各地から強豪7チームが参加。ハイレベルなエキシビジョンマッチで会場を沸かせました。



12月11日、公益社団法人宇摩法人会（篠原聡一会長・写真中央右）から、税・財政改革のあり方や経済活性化と中小企業対策などを求める提言書が提出されました。篠原会長は、物価高騰や人手不足など中小企業が現在置かれている厳しい状況を改善し、まちを活性化したい」と提言書に込めた思いを話しました。

税制改正で中小企業を元気に
宇摩法人会が提言書を提出



遊びにおいでよ！
伊予三島運動公園の遊具を更新

伊予三島運動公園子ども広場（中之庄町）の複合遊具が新しくなりました。

新しい遊具は、年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、さまざまな個性や感覚を持つ人が一緒に遊べる「インクルーシブ遊具」です。もちろん、使いやすさや安全にも配慮されています。ぜひご利用ください。

過去最高68億1千万円の取引成立
新春紙初市で幸先の良いスタート



1月7日、株式会社紙業会館（井上治郎代表取締役）主催の「新春紙初市」がホテルグランフォール（三島朝日）でありました。

その年の紙市場の景気を占うと言われるこの商いに、今年は紙関連企業や問屋など、52社から175人が参加。三島高校書道部による迫力ある書道パフォーマンスで温められた会場では、テーブルを囲んで売り手と買い手の交渉が活発に行われ、取引が成立する度に威勢の良い三本締めが響き渡りました。

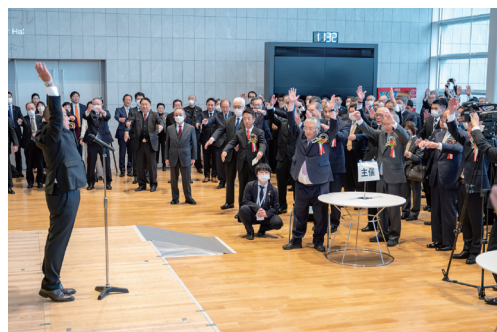
そして、今年の取引額は、昨年より6800万円増の68億1千万円で過去最高額を更新。紙のまちランキングで19年連続日本一に輝いた本市は、今年も幸先の良いスタートを切りました。



これまでもこれからも紙とともに
紙の記念日に感謝の気持ちを込めて

12月16日は日本で初めて抄紙工場が稼働した「紙の記念日」です。

今回、紙のまちランキングで19年連続1位を達成したことを記念して、紙の記念日に紙への感謝を込めた記念行事を行いました。市役所1階の特設コーナーでは、職員や市民が白い紙に紙への感謝の気持ちを記し願掛け紐に結び付けました。



1月6日、本市の発展を願う年始の恒例行事「新年交歓会」が、こちゅうホールであり、企業や団体から320人が出席しました。開会挨拶で篠原市長は「この先どんな困難が待ち受けていても、本市のポテンシャルとみなさんの協力があれば必ず突破できる。顔を上げて頑張ろう」と力を込めました。

次の20年に向けて新たなスタート
新年交歓会で発展を誓う



心をひとつに
市民合唱団が歓喜の歌を合唱



12月28日、市発足20周年としこちゅうホール開館5周年を記念した、ベートーヴェン作曲交響曲第九番の演奏会「しこちゅう第九」がありました。

この日のために結成された市民162人の合唱団は、4か月にわたる練習の成果を遺憾なく発揮し、瀬戸フィルハーモニー交響楽団との共演で観客を魅了しました。



デザイン思考を身に付けよう 若きICTのリーダーたちが交流

12月21日、グーグル社から講師を招いたワークショップが三島東中学校であり、小中学校でICT推進を担う児童生徒ら36人が参加しました。

参加者たちは、学校でICTを学ぶ中で、それぞれが抱えている悩みを同社のツールを使って言葉にし、互いに共有することで解決策を導き出しました。



GIGAしこちゅで課題を解決 ICT教育の全国大会で小学生が健闘

12月14日、東京大学本郷キャンパスで、グーグル社主催「ジュニアICTリーダーサミット」があり、本市から5人の小学生が参加しました。

児童たちは「学びを深めるための情報端末活用アイデア」をテーマにプレゼンテーションするとともに、本市の魅力を全国に向けてPRしました。



しこちゅ〜ホール（妻鳥町）のみどりの広場に光のオブジェが登場。訪れた人たちの目を楽しませました



港記念公園（三島中央）を彩る3万個のLEDで、日本一の紙のまちを支える三島川之江港の発展を願いました



関川河川敷ふると広場（土居町土居）に光のテーマパークが出現。5万個のLEDが冬の関川を彩りました

ちよつとそとまで
広報 SAMPO
まちを彩った
イルミネーション

市長の ひとりごと

よろしくお願いいたします。



四国中央市長 篠原 実

新しい年に入り、各行事が順調に消化しているようにみえる。次年度に向けて、予算編成作業も大まかには進んでいるようである。

自身自身の進退もあり、完璧に言い切ることは難しい。願わくは、各部署において異なる意見は意見としてさておき、誤解が人間関係の亀裂に深く刻まれないように、幹部職員のみならずには、できる限りの言葉による配慮と融和を保つ温かさを持つていて欲しいと願っている。

振り返れば忘れてしまうようなことが大半であっても、その一時的なときは冷静にこなすことが難しいから人間というのは面倒くさいのである。

私がこの職を後期高齢者になる歳まで続けられたのも、希な

がら不思議である。市長就任の際、現の中村知事に挨拶に訪れた時、中村知事から「篠原さん、市長の仕事は根気と辛抱ですから、頑張ってください」と諭すように話をされた。私とは県議会議員の同期でもあったので、今もその温かな響きが鮮烈に残っている。

一日の仕事を終えて、夕日を背中に浴びながら、大相撲の終盤を聞くのも有難いと思えるようになってきた自分の年齢を年齢として、素直に受け入れられる歳になってきたということだな。

いつも支えていただいた多くのおみなさんに感謝であります。この職を引いても、与えられた仕事は残っておりますので頑張ります。



その拳で勝利を勝ち取れ 敬心館の選手が空手の全国大会出場

空手道の地区大会で優秀な成績を収めた、日本空手道敬心館（三島金子）の11人の選手たちが、12月から1月にかけて開催された4つの全国大会へ出場を決めました。

12月11日に市役所で出場報告をした選手たちは「チャンピオンを目指します」、「日本一になります」と志の高い抱負を掲げました。



バレーボールの全国大会に 本市の中学生が県代表で出場

12月25日から大阪府で開催された「JOCジュニアオリンピックカップ全国都道府県対抗中学バレーボール大会」に、合田陽輝さん（川之江南中・写真左）、石川さわさん（同・写真中央）、藤原有生さん（川之江北中・写真右）が出場しました。3人は12月10日に篠原市長を表敬訪問し、活躍を誓いました。



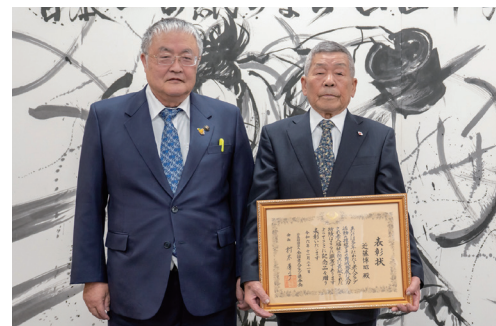
いざラグビーの聖地へ 三島高校の2選手が花園出場

1月5日に花園ラグビー場（東大阪市）で開催された「U18合同チーム東西対抗戦」に、三島高校ラグビー部の眞鍋希天さん（写真右）と菰田麟太郎さん（同左）が西軍代表として出場しました。大会を前にした12月16日に、市役所で出場報告をした両選手は、憧れの舞台に懸ける思いと意気込みを伝えました。

市の木が伝統工芸とコラボ 赤石五葉松水引細工が完成



昨年2月に市の木に制定した「五葉松」を市民の皆さまに一年中楽しんでもらうため、赤石五葉松輸出振興組合（森高準一会長）と有高扇山堂（有高秀三代表取締役）の協力で、赤石五葉松を水引細工で制作しました。細部にまでこだわった逸品は、市役所と土居窓口センターの1階に展示しています。



市老連近藤博昭会長が全国表彰 これからも仲間たちとともに

11月21日、長年にわたり老人クラブ活動の推進と育成に尽力したことが讃えられ、市老人クラブ連合会の近藤博昭会長（土居町北野）が全国老人クラブ連合会会長表彰を受賞しました。12月9日に篠原市長を表敬訪問した近藤会長は「支えてくれる皆さまのおかげです」と、仲間たちに感謝を伝えました。

能登半島地震の復興を願って 詩歌倶楽部SUNSが義援金を寄贈



詩歌倶楽部SUNS（井原算吾会主）が11月にしこちゅ〜ホールで開催した歌謡フェスティバルで集められた義援金が、日赤能登半島地震災害義援金として寄贈されました。

12月16日の寄贈式で井原会主は、「能登の現状を見てきました。早期の復興に役立てて欲しい」と、被災地への思いを話しました。